令和５年度　防府市立中関小学校　校内研修

“つながり”の中で学びを深める（１年次）

～一人ひとりが「わかる」「できる」を実感できる授業づくりをめざして～

1　本校の研究について

本校では「志をもち、つながりの中で、未来を切り拓く中関っ子の育成」を学校教育目標に掲げ、「智」・「仁」・「勇」の校訓に準え、「学び続ける子どもの育成」「いじめを決して許さない心の育成」「危機対応能力の向上」「地域活性化の核となる学校づくり」を重点目標として教育活動を行っている。

今年度は、「“つながり”の中で学びを深める　～一人ひとりが「わかる」「できる」を実感できる授業づくりをめざして～」と題して研修を行った。主題には、学校教育目標でも大切にしている“つながり”という言葉を入れている。子と子のつながり（対話）、子と教材・学習内容とのつながり（教材研究、授業構成、支援の工夫の改善へとつなげる）、学年間の学びのつながり（学力）、内容や領域のつながり等、さまざまな“つながり”が込められており、“つながり”を意識した取組の中で、子どもの力を伸ばし、学びを深めていきたいという思いがある。また、日々実践していく中で、職員同士もつながり合い、互いの授業を見合い、子どもたちのために一緒に切磋琢磨していく“つながり”を大切にしていきたいという思いもある。

副題は、『一人ひとりが「わかる」「できる」を実感できる授業づくりをめざして』とした。本校の子どもたちの長年の課題は、読み書き・計算等の基礎・基本の定着である。基礎・基本が身に付いていないからか、問題を読むことを嫌がったり、解くことを諦めたりする子どもも多い。基礎・基本を身に付け、学びに対する意欲的な姿勢を育てるために、「どの子もできる」「どの子も分かる」「どの教科でも通用する」授業づくりをしていくことが大切だと考える。そこで、UD（ユニバーサルデザイン）の授業づくりにおけるポイントである焦点化、視覚化、共有化を意識し、どの教科でも、どの子どもにも使える授業技術を研究していきたい。また、特別支援教育の視点を取り入れた環境づくりもあわせて進めていきたい。全教職員が同じ視点をもって授業づくりや授業参観をしていき、日々の授業改善へとつなげていけるようにするために、今年度は４つの視点を設けたい。①授業の展開、②板書、③視覚的支援（ICT 活用や掲示）、④ワークシートの４つである。

〔研究の視点〕
①授業の展開
②板書
③視覚的支援
④ワークシート

2　研究のあゆみ

４月12日	研究主題設定	
６月14日	全校研	第３学年算数科学習指導案検討会
６月28日	全校研	第３学年算数科「表とグラフ」
９月13日	全校研	第５学年外国語科学習指導案検討会
10月18日	ブロック研	第１学年算数科「たしざん（２）」
		第６学年道徳科「修学旅行の夜」
10月25日	全校研	第５学年外国語科研究「He can run fast. She can do kendama.」
11月15日	全校研	第２学年算数科学習指導案検討会
11月21日	ブロック研	第４学年算数科「面積」
12月６日	全校研	第２学年算数科「三角形と四角形」
１月24日	研修の振り返り	
２月25日	研究紀要完成	

３　授業実践

【第１学年の取組】「たしざん（２）」

（１）主眼

（１位数）＋（１位数）で繰り上がりのあるたし算について、数図ブロックの操作を通して、１０の補数を利用した計算方法を見いだすことができるようにする。

（２）授業を振り返って

①　授業の展開について

学習課題を児童の日常生活に近いものとして､児童の興味をひく工夫をして学習を進めた。また、挿絵を動かしながら提示することで問題を理解しやすいようにするなど、わずかな工夫で児童たちが興味をもって課題に取り組む姿が見られた。

②　板書について

どの児童にとっても必要な情報を取捨選択し、分かりやすい板書ができた。

③　視覚的支援について

話型カードについては､「～に気付きました」「～が分かりました」などの基本に加えて､「〇〇さんの話を聞いて、～」や「大切なことは、～」などの発展型を示すことで、振り返りや発表の質を高めることができてきている。

④　ワークシートについて

考えるポイントを焦点化したワークシートを活用することで、児童の考えが深められるようになった。また、ペア学習の際もワークシートを用いたことでどこを見て比べると良いかがわかりやすく、スムーズに学習を進めることができた。

【第２学年の取組】「三角形と四角形」

（１）主眼

動物を線で囲み、囲んでできた形を仲間わけする操作をとおして、三角形と四角形の意味を理解することができるようにする。

（２）授業を振り返って

①　授業の展開について

学習では、それぞれの課題において、児童一人ひとりが自分の意見をもち、その意見を明確にすることを意識した授業づくりに取り組んだ。授業の各場面で挙手やハンドサインなどで意思表示をする場面を設定することで、友達の意見を自分事として聞く態度や友達の考えを聞いて、自分の考えを再構築する姿勢につながった。

②　板書について

課題解決の過程で、一人ひとりの児童の意見を整理して黒板に示すという点で課題が残った。友達の意見と自分の意見を比べて考察し、課題解決に向かう際に、整理された構造的な板書は不可欠である。

③　視覚的支援について

直線と曲線の違いを、実際のひもを用いて実演したり、直線の数を指さしながら数えたりする活動をとおして､「3本の直線」といった言葉の意味を正しく理解することができるようにした。

④　ワークシートについて

できた図形の仲間分けは、タブレット PC を用いて行った。タブレット PC 上で行うことで、それぞれの児童の考えや仲間分けの根拠を短時間で共有することができた。事前に回答の共有機能を使い、それぞれの児童同士の意見を共有する時間を設定することも有効であった。

【第３学年の取組】「表とグラフ」

（１）主眼

１目盛りが何人を表しているのかをよみとる活動をとおして、１目盛りの大きさに注目してグラフをよむことができる。

（２）授業を振り返って

①　授業の展開について

児童にとって身近な話題を扱ったことで、「カレーライスが好きな人は〇人だ。」と自分からグラフをよもうとする姿が見られた。その中で主発問に繋がる発言から、展開に繋げることができたのでよかった。

②　板書について

児童に配付したグラフを拡大したものを掲示したことで、同じ場所を指さしながら授業を行うことができた。また、拡大したグラフを指さしながら説明できていたため、児童は友達の考えを理解することができていた。

③　視覚的支援について

タブレットＰＣを使って自分たちで拡大や縮小をしたり、重要だと思うところを書き込んだり、児童自身が焦点化しながら活用することができた。

④　ワークシートについて

タブレットＰＣを使って話し合ったことをまとめる際に、タブレットＰＣに送ったグラフと表をそのままワークシートに載せたので、どこを見たらよいのかなど確認しながら進めることができた。

【第４学年の取組】算数科「面積」

（１）主眼

複合図形を分割したり、補完したりして、既習の長方形や正方形の面積の公式を使えるように工夫し、面積を求めることができるようにする。

（２）授業を振り返って

①　授業の展開について

問題場面を分かりやすく提示し焦点化することで、意欲をもって課題に向かうことができた。

②　板書について

自分の考えと友達の考えを比較したり、自分の考えの変容を確認したりすることに役立てることができた。

③　視覚的支援について

タブレットＰＣを活用することで一人ひとりが自分の考えを見せ合ったり、全員の考えを大型テレビに提示して共有したりすることができた。

④　ワークシートについて

振り返りの視点（分かった、ふしぎに思った、むずかしいなと感じた）を与えることで、具体的に振り返りができるようになった。

【第５学年の取組】外国語科「He can run fast. She can do kendama.」

（１）主眼

He[She] can などの表現を用いて、自分がインタビューした第３者のできることやできないことについて、伝えることができる。

（２）授業を振り返って

①　授業の展開について

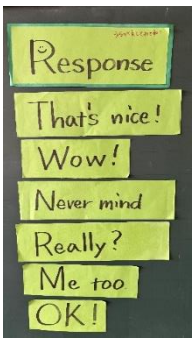
導入でのフォニックスや Small Talk を継続的に行っていくことで、繰り返し出てくる表現に気付き、自信をもって表現しようとする児童が増えてきた。児童同士がコミュニケーションを図る際も、単発的な表現に終始することなく、相手の言葉に反応できる児童が多く見られるようになった。

②　板書について

４つの「たいせつ」を示すことにより、コミュニケーションを取る時に大切にしたい事柄を毎時間意識して活動させることができた。各授業内容によって、教師が投げかけたり、児童自身がやり取りをする際に自分のめあてとして選んで、取り組んだりすることもできた。

③　視覚的支援について

イラストがあることで音声や文字と結びつけて学習に取り組み、単語の習得をすることができた。



④　ワークシートについて

児童が自分自身の学習到達度を把握する上で習得したい表現を明記することは有効であった。ワークシートに明記している英語表現について、教師や ALT に質問する姿も見られ、使える言葉が増えるたびに少しずつ自信をつけていった。

【第６学年の取組】道徳科「修学旅行の夜」

（１）主眼

自由と自分勝手の違いについて考えることをとおして、自由の大切さを理解し、自他の自由を尊重するとともに、責任ある行動について自律的に判断しようとすることができる。

（２）授業を振り返って

①　授業の展開について

本時の学びに関連する内容や、既習事項などを、簡単なクイズ形式やスライドで示すことで、児童が同じスタートラインに立って授業に臨めるように気を付けて学習を進めた。

②　板書について

ネームプレートを用いて児童の発言を板書に残したり、キーワードとなる言葉に印を付けたりすることで、授業をまとめる際だけでなく、児童が振り返りをする際にも活用することができるようになってきた。

③　視覚的支援について

デジタル教科書やロイロノートを活用し、教科書の一部分だけを示したり、手元で一緒に操作する様子を見せたりすることで、学習内容に集中しやすくなるように努めた。その際には、重要な内容やキーワードとなる言葉は、板書にも残すことで、一時的なものではなく、常に授業内で活用できるようにした。

④　ワークシートについて

教材研究の際に、児童に考えさせたい部分を焦点化したり、必要に応じて資料を追加したりすることで、より学びを深めるための授業づくりに役立つワークシートの作成を心がけた。授業時間内にゆとりをもって振り返りまでできるよう、取捨選択を行い、ノート、ワークシート、タブレット PC を使い分けてより効果的な活用ができるよう、今後も工夫をしていきたい。

４　本研究を振り返って

本研究を４つの視点から振り返る。

「授業展開」では、学習課題を生活経験と結びつけたり、見通しをもった授業展開を考えたり、板書とタブレット PC の双方のよさを取り入れたりして授業を進めていくことで、児童の理解や思考を深めることにつながっていた。

「板書」では、児童の意見をただ書き残すのではなく、黒板を見ることで考えが深まったり、大切なことをつかんだりできるように、板書計画をすることが授業の活性化につながっていた。

「視覚的支援」では、大型テレビに映し出す、資料の一部を隠して提示する、思考の手がかりとなるように色の工夫をするなど、さまざまな面で授業づくりの工夫が見られた。「これが正解」という視覚的支援はなく、児童の実態に応じた視覚的支援を行うことが児童の「わかる」「できる」につながっていくことが分かった。

「ワークシート」では、紙のよさ、タブレット PC のよさをそれぞれ見極めることが課題の一つと考えられる。文字をたくさん書くのであれば紙の方がよいだろうし、素早く意見を共有するためであればタブレット PC の方がよいかもしれない。その授業で何をねらい、どんな力を児童に身につけさせたいかによって、ワークシートの扱い方を考える必要がある。

これらの研究の成果とともに、本校の子どもたちの実態に応じた UD の授業づくりについての課題も明確になってきた。この課題を克服すべく、「“つながり”の中で学びを深める」児童の育成をめざして、今後も授業改善に努めていきたい。